



西尾いきものふれあいの里だより

3月号

2021.3.1 発行

さとやま

今月の見どころ

春の息吹



今年の2月は、1月に続き寒波が何度か襲来しましたが、3月になると、日差しも強くなり、日に日に気温が上がっていきます。下旬になると、写真のように木々も息を吹き返したように色付きはじめます。

ビオトープ付近では、サギが翼を広げているように見えるムラサキサギゴケ、小草池へ向かう道にはコスミレ、田んぼエリアでヒメウス、ショウジョウバカマの小径では、ショウジョウバカマの花など、春の花をたくさん見つけることができるようになります。

万灯山エリアでは、独特なおいを漂わせるヒサカキや、アオキなどの木の花もみつかります。これらは、雄株と雌株があります。珍しいオガタマノキや、愛知県の木であるハナノキも花を咲かせます。



ムラサキサギゴケ



コスミレ



ヒメウス



ショウジョウバカマ



ヒサカキ (雄花)



アオキ (雄花)



オガタマノキ



ハナノキ

里の生き物紹介 イヌノフグリの仲間たち

春の野原で、写真のように小さなたくさんの花を咲かせるのは、春の定番のような植物、オオイヌノフグリです。



以前はゴマノハグサ科とされていましたが、最近ではオオバコ科に分類されています。花は太陽の光で開き、夕方にはしぼみ、ほとんどは1日で落ちてしまいます。花弁は4枚で、1枚が少し小さく、雌しべが1本、雄しべが2本あります。

名前の由来は、果実の形が犬の鞆丸（ふぐり）に似ていることからついたといわれています。でも、実物はそれほど似ているようには見えません。なぜコバルトブルーの目立つ花ではなく、果実からちょっとかわいそうな名がついたのでしょうか。



実はオオイヌノフグリは、明治になってから入ってきたヨーロッパ原産の外来種で、日本にはイヌノフグリという在来種があるのです。



写真は別の場所で撮ったものです。花は非常に小さくて、色も薄いですね。果実は地味な花に比べ良く目立ちそうで、オオイヌノフグリより丸みをおびています。これなら、名がついたのも納得できます。

2月の少し暖かくなったころ咲き始め、4月には姿を消してしまいます。オオイヌノフグリと比べ、花期も短いためか、競合すると負けてしまうようです。

絶滅が危惧されていて、残念ながらこの写真を撮った場所も、駐車場になってしまい、姿を消しました。環境の変化にも弱いようです。

センターゾーンでは、こんな花もみつかります。



これも外来種で、**フラサバソウ**といます。名は、発見者にちなんでいるようで、「コゴメイヌノフグリ」という別名もあります。花期は2月～4月頃で、オオイヌノフグリよりは少し短いようです。

果実は、上から見ると4つに分かれているように見えます。



4月に入り、フラサバソウが姿を消し始める頃、もう1種類のイヌノフグリの仲間、**タチイヌノフグリ**が咲き始めます。



他のイヌノフグリたちが地面を這うように伸びるのに対し、**タチイヌノフグリ**は莖が直立することから名が付けました。これも外来種です。花は5月頃まで咲きます。

花は小さく、果実も小さいですが、写真のように上から見るとオオイヌノフグリよりさらに平たくなっています。

白花のものもみつけました。他のイヌノフグリの仲間にも、白花があるようです。

春の日差しの中、イヌノフグリの仲間を探して、里を散策してみましょう。

里で在来種イヌノフグリをみつけたら、ご一報下さい。



2月の行事紹介



講座「里山で野鳥を観察しよう」を西三河野鳥の会メンバーである高田俊洋氏を講師に招き、2月7日（日）に開催しました。

この里では毎年多くの冬の水鳥を見かけます。カモの代表種で『ザ・カモ』と言えばマガモですが、カルガモの次に多く見られ、コガモまで含めると約200羽を見ることができました。同じ種類でもオスとメスで色がちがい、季節によって色がちがう場合があるので、野鳥といっても完全に見分けるのは、難しいことが分かりました。

その日は、ツグミも5羽見られ、「ちょこちょこ進んでは止まる」といった「ダルマさんが転んだ」のような動きをするところがとても面白いと思いました。生態も似ているシロハラ2羽も見られ、野鳥にとっても興味があった一日でした。

4月の行事予定

3日（土）	春のタケノコ掘りⅠ ※注1	30名	9:30～11:30	当園職員
4日（日）	万灯山へ妖精の足跡を探しに行こう	20名	9:30～15:00	高須 桂子
11日（日）	春のタケノコ掘りⅡ ※注1	30名	9:30～11:30	当園職員

※注1～「春のタケノコ掘りⅠ&Ⅱ」両日への申込みはできません。

- ◆参加受付は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順で来園、または電話にて受付します。また、お申込みは本人、もしくはそのご家族までとします。
- ◆参加申込者は傷害保険に加入のため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学扱い」とし、傷害保険の加入はありません。
- ◆天候や少数（6名以下/1講座）、コロナ禍などにより「講座の中止・延期」、または「受講内容の変更する場合があります。
- ◆原則、参加費は無料ですが材料費などは実費を申し受けます。
- ◆詳細な講座の内容などは、直接ネイチャーセンターにご確認ください。

西尾いきものふれあいの里

◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266

◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始 [12/28~1/4] ◆発行 西尾市環境部環境保全課